

六角川（佐賀県）の現地調査概要

- ・佐賀県では、台風や集中豪雨により、昭和 28 年 6 月洪水、平成 2 年 7 月の「平成 2 年水害」、令和元年 8 月の「令和元年 8 月豪雨」を始めとする水害が幾度も発生している。
- ・文献調査に基づき、過去の記録が残る地域において詳細情報を収集するため、佐賀県六角川で現地調査を実施した。

調査地点：佐賀県六角川



▲調査箇所図

【昭和 28 年 6 月洪水（梅雨前線による大雨）の概要】

- ・昭和 28 年 6 月の六角川流域を含む佐賀県全域を襲った豪雨は、佐賀県に大きな被害をもたらした。佐賀県六角川流域では、6 月 25 日午後から本格的な降雨となり、同日 5 時から 6 時にかけて時間雨量においてほとんどの観測所にて日雨量 300mm 以上を記録した。
- ・6 月 25 日から 28 日にかけて断続的な降雨が続き、死者行方不明者 3 名を始め、河川のはん濫、堤防の決壊、地すべり、鉄道・電話・電信の不通など甚大な被害が発生した。

▼昭和 28 年 6 月洪水による六角川水系の被災状況

死者、行方不明者	3 名
流失及び全半壊戸数	16 戸
床上浸水、床下浸水合計	約 14, 000 戸

出典：六角川水系河川整備計画（令和 2 年 7 月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

【昭和 28 年 6 月洪水の被災状況】



▲小城市芦刈町での浸水状況



▲三日月町の被災状況



▲嘉瀬村の被災状況



▲佐賀市の浸水状況



▲橋梁の復旧工事

出典：嘉瀬川水系河川整備計画（平成 19 年 10 月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

【平成2年水害の概要】

- ・平成2年7月の九州一帯を襲った梅雨前線による豪雨（根子岳崩壊）は、西日本一帯に大きな被害をもたらした。佐賀県六角川流域では、7月2日0時頃から本格的な降雨となり、同日5時6時においてほとんどの観測所にて時間雨量60mmを記録した。
- ・観測史上まれにみる短時間の集中豪雨となり、六角川の塩見橋水位観測所では計画水位を超える最高水位4.95mを記録し、流域全体において堤防の越水及び決壊、内水による甚大な被害が発生した。
- ・雨は6月2日～7月22日まで続き、熊本県などでは200箇所以上の崩落が発生した。

▼平成2年水害による六角川水系の被災状況

死者、行方不明者	1名
流失及び全半壊戸数	47戸
床上浸水	3,028戸
床下浸水	5,658戸
農地浸冠水	7,933ha

出典：六角川水系河川整備計画（令和2年7月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

▼平成2年水害によるその他水系の被災状況

死者、行方不明者	14名（白川流域）、2名（緑川流域） 1名（菊池川流域）、5名（大野川流域）
流失及び損壊戸数	家屋全損流出3戸（松浦川流域） 家屋損壊65戸（大野川流域）
床上浸水	937戸（筑後川流域）、1,783戸（嘉瀬川流域） 1,614戸（白川流域）

出典：白川水系河川整備計画（令和2年1月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]
 緑川水系河川整備計画（平成25年1月）[国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所]
 菊池川水系河川整備計画（平成23年9月）[国土交通省 九州地方整備局 菊池河川事務所]
 大野川水系河川整備計画（平成26年12月）[国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所]
 松浦川水系河川整備計画（平成24年8月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]
 筑後川水系河川整備計画（平成30年3月）[国土交通省 九州地方整備局 筑後河川事務所]
 嘉瀬川水系河川整備計画（平成19年10月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

【平成2年水害の被災状況】



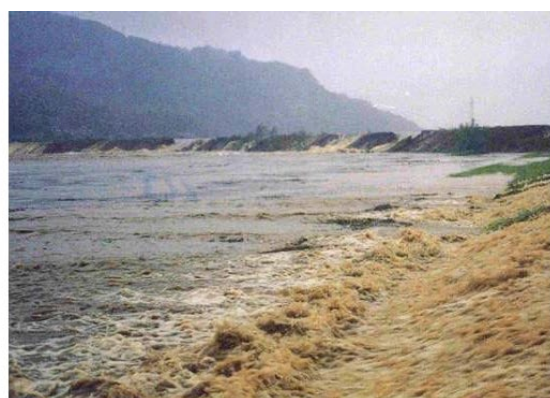
▲武雄市街地



▲武雄市橋町の堤防決壊状況



▲武雄市北方町での浸水状況



▲東多久町での堤防の越水状況

出典：六角川水系河川整備計画（令和2年7月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]
六角川水系牛津川圏域河川整備計画（平成27年7月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

【六角川治水碑：佐賀県武雄市】

- ・平成2年水害によって被害を受けた栴島橋たもとの堤防沿いに「六角川治水碑」が建っている。碑文には、被災状況や水害の経緯が写真とともに掲載されている。
- ・栴島橋付近の武雄市では593戸が浸水し、浸水面積は110haにも及んだ。



▲六角川治水碑の位置（佐賀県武雄市）

出典：国土地理院



▲六角川治水碑（佐賀県武雄市栴島橋そば）

令和2年11月11日撮影



▲六角川治水碑碑文

令和2年11月11日撮影

■六角川治水碑の碑文

「平成2年水害と六角川の治水対策」

平成2年7月1日から降り出した雨は、六角川流域で総雨量 400mm～500mm、7月2日の4時から10時までの5時間だけでも284mm（矢筈観測所）という観測史上最大の集中豪雨となりました。このため、六角川水系では未曾有の大洪水となり、7月2日には随所で破堤、溢水が生じました。あふれた濁流は、流域の広い範囲で市街地、家屋、田畑を呑み込み、浸水家屋8,636戸、浸水面積10,403ha、被害額484億円という大水害となり、流域住民の財産を奪い生活を破壊しました。

建設省ではこのような水害が再び起きないように、六角川水系の中上流部約41kmの区間を「直轄河川激甚災害対策特別緊急事業」に採択し、平成2年度から平成6年度までの5年間に330億円の投資を行って、六角川水系の全域にわたって大規模な治水対策を実施しました。」

（平成7年7月建設省九州地方建設局武雄工事事務所）

(その他)

【水難防除の誓文：佐賀県武雄市 かつばの誓文石】

- ・ 佐賀県武雄市に位置する六角川塩見神社近くにはかつばの誓文石が建っている。
- ・ 茂手の石井樋から上見橋まで水難防除の誓文をかけたという記録が残っている



▲かつばの誓文石の位置（佐賀県武雄市）

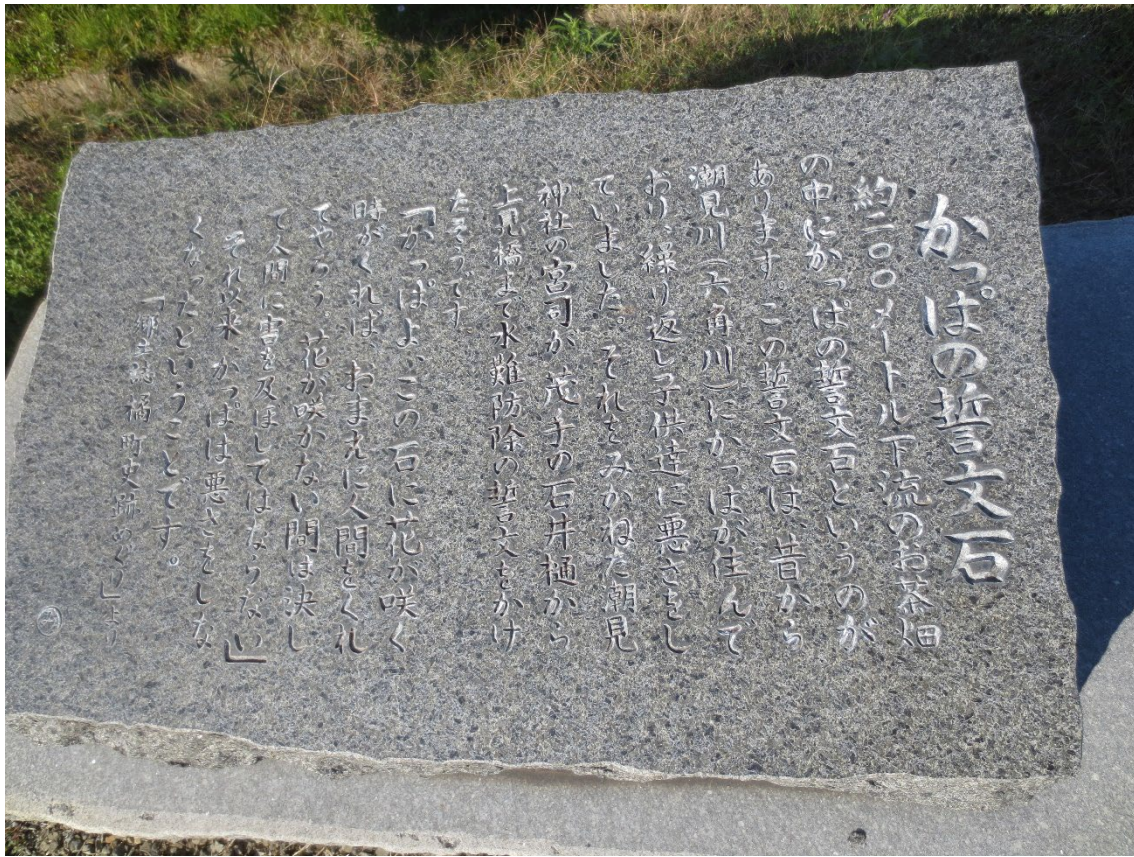


▲かつばの誓文石



▲かつば像（かつばの誓文石横）

令和2年11月11日撮影



▲かっぱの誓文石碑文

令和2年11月11日撮影

■かっぱの誓文石碑文

潮見城第一代の城主 橋公業が、嘉禎三年（一二三七）長嶋荘惣地頭として、橋に下向されました。その折、橋氏の眷属（家臣）であったかっぱも、公業に従って潮見川に移り住みました。かっぱは元気でしたのでつい子ども達にいたずらをしました。

人々の苦しみを知った公業は、潮見神社の神主さんに、その説得を頼みました。神主さんは、この誓文石のところにかっぱを集め「かっぱ達よ、この石に花が咲いたらお前達に人間を一人くれてやろう。それまでは決して人に害を与えてはならない」と誓文を取りかわし約束しました。

かっぱ達は、それから約束を守って人に害を与えなかったとされています。

毛利大宮司家には、かっぱよけの呪文として次の歌が残っています。

「兵主部よ 約束せしは 忘るなよ 川立つおのこ 跡はすがはら」

（平成二十二年 橋町まちづくり推進協議会）

【令和元年8月豪雨（前線による大雨）の概要】

- ・令和元年8月の九州北部一帯を襲った豪雨は、九州一帯に大きな被害をもたらした。佐賀県六角川流域では、8月27日から本格的な降雨となり、同日時間雨量においてほとんどの観測所にて時間雨量85mm以上を記録した。雨は8月29日まで続いたとされている。
- ・観測史上まれにみる短時間の集中豪雨となり、六角川の塩見橋水位観測所では計画水位を超える最高水位4.12mを記録し、流域全体において堤防の越水が発生し、内水による甚大な被害が発生した。
- ・人的被害は佐賀県で3名の死者、福岡県で1名の死者。建物被害として家屋全壊が佐賀県87戸、福岡県6戸、床上浸水が佐賀県773戸、福岡県120戸、長崎県20戸発生した(R2.4.1時点)

▼令和元年8月豪雨による六角川水系の被災状況

床上浸水	1,132戸
床下浸水	1,804戸
農地浸冠水	約6,900ha

出典：六角川水系河川整備計画（令和2年7月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

【令和元年8月豪雨の被災状況】



▲小城市牛津町の浸水状況



▲武雄市北方町市街地の状況



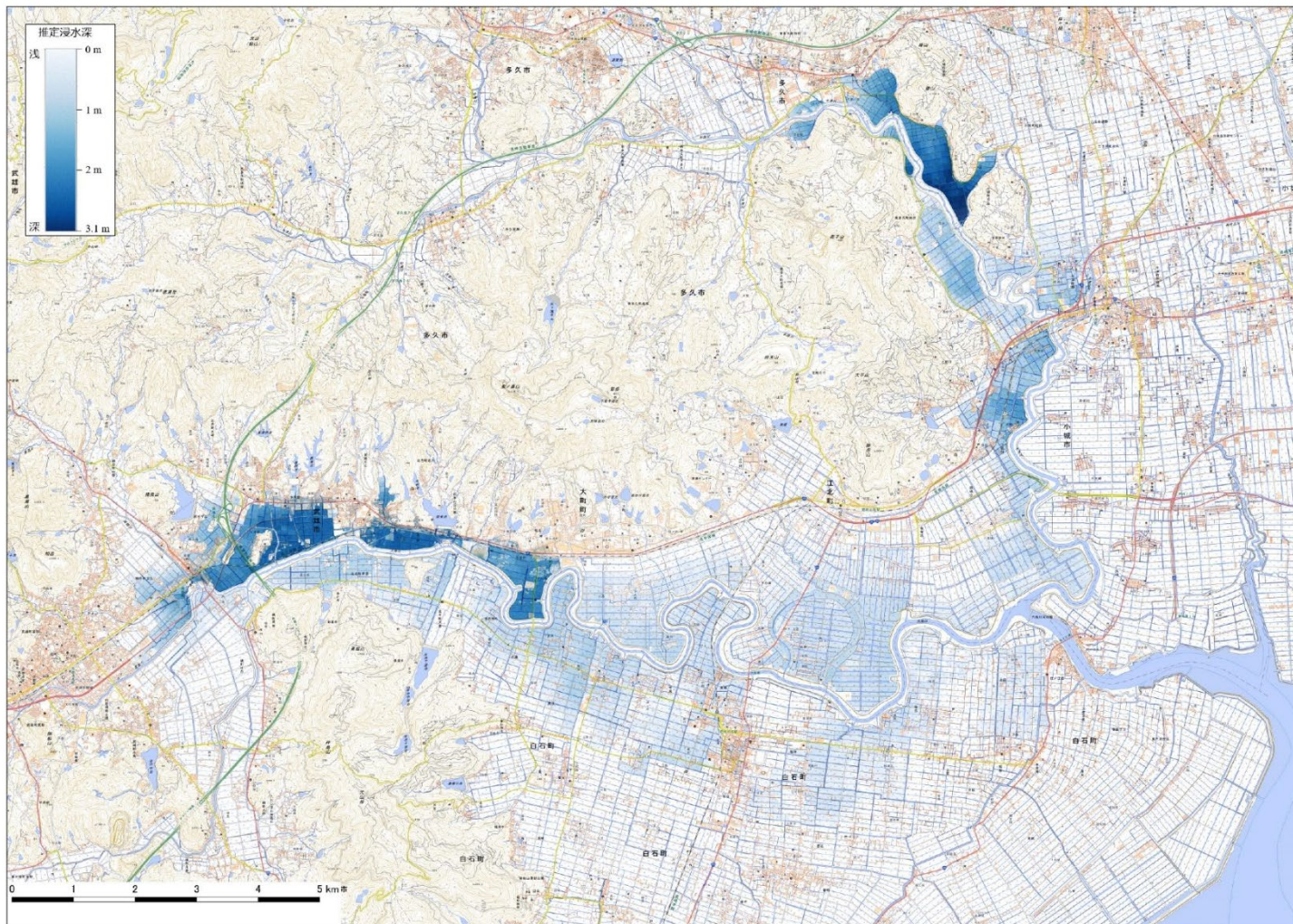
▲大町町付近の浸水状況



▲六角川水系牛津川における越水状況

出典：六角川水系河川整備計画（令和2年7月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

▼令和元年8月豪雨の六角川水系被害状況



出典：国土地理院

▼六角川水系既往洪水の概要

洪水発生年月	原因	住ノ江橋地点	被害状況
		流量	
昭和 28 年 6 月	梅雨前線	約 1,400 m ³ /s	死者・行方不明者 : 3 名 家屋損壊 : 16 戸 浸水家屋 : 14,000 戸 ※旧杵島郡の被害
昭和 31 年 8 月	梅雨前線	約 800 m ³ /s	家屋損壊 : なし 浸水家屋(床上) : 40 戸 浸水家屋(床下) : 180 戸 ※旧杵島郡の被害
昭和 42 年 7 月	梅雨前線	約 1,300 m ³ /s	死者 : 2 名 家屋損壊 : 109 戸 浸水家屋(床上) : 1,754 戸 浸水家屋(床下) : 7,098 戸
昭和 47 年 7 月	梅雨前線	約 1,000 m ³ /s	家屋損壊 : 6 戸 浸水家屋(床上) : 220 戸 浸水家屋(床下) : 3,771 戸
昭和 55 年 8 月	台風、前線	約 1,200 m ³ /s	浸水家屋(床上) : 1,670 戸 浸水家屋(床下) : 3,165 戸
平成 2 年 7 月	梅雨前線	約 2,200 m ³ /s	死者・行方不明者 : 1 名 家屋損壊 : 47 戸 浸水家屋(床上) : 3,028 戸 浸水家屋(床下) : 5,658 戸
平成 5 年 8 月	前線	約 1,200 m ³ /s	浸水家屋(床上) : 98 戸 浸水家屋(床下) : 778 戸
平成 7 年 7 月	梅雨前線	約 800 m ³ /s	浸水家屋(床上) : 28 戸 浸水家屋(床下) : 347 戸
平成 21 年 7 月	梅雨前線	約 1,600 m ³ /s	浸水家屋(床上) : 65 戸 浸水家屋(床下) : 335 戸
平成 24 年 7 月	梅雨前線	約 1,400 m ³ /s	浸水家屋(床上) : 3 戸 浸水家屋(床下) : 14 戸
平成 30 年 7 月	梅雨前線	約 1,100 m ³ /s	浸水家屋(床上) : 19 戸 浸水家屋(床下) : 113 戸
令和元年 8 月	前線	約 2,000 m ³ /s	死者 : 3 名 浸水家屋(床上) : 1,132 戸 浸水家屋(床下) : 1,804 戸

出典：六角川水系河川整備計画（令和 2 年 7 月）[国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所]

▼災害遺構位置図



(参考資料：祇園川関連の災害遺構)

【昭和 28 年 6 月水害の水害復旧記念碑：佐賀県小城市三日月町 水害復旧記念碑】

・佐賀県小城市三日月町の祇園川沿いにある観音堂境内に水害復旧記念碑が建っている。



▲水害復旧記念碑位置（佐賀県小城市三日月町）



▲水害復旧記念碑

令和 3 年 2 月 28 日撮影

【碑文について】

- ・小城市三日月町道辺の祇園川沿いにある観音堂境内に建つ昭和 28 年 6 月水害の復旧記念碑。
- ・碑文は判読困難であるが、三日月町史にその全文が掲載されているので引用する。

※以下、三日月町史 下巻（平成元年 11 月 1 日発行）P161～162 より

水害復旧記念碑 佐賀県知事 鍋島直紹

「昭和二十八年六月十八日より六月三十日に亘る未曾有の豪雨に依り、各河川は瞬時に氾濫し、祇園川左岸道辺地区の堤塘は部落民昼夜必死の補強工作も効を奏せず、終に六月二十六日未明道辺橋上流百五十米地点より百米余欠潰し、濁流の土砂は当部落全域に流入し忽にして泥海と化し惨害は其の極みに達す、明れは我等の生命に綱たる四十余町歩の美田は一瞬にして荒野となり、秋の稔りは一夜の夢と化し茫然自失となるも、此れか復旧は人為にまつ他に策なしと一同互いに奮起を促し、復旧組合を組織し老幼男女打って一丸となり仆れて後止む堅き決意の下に復旧工事に着手せり、尚村長並各関係官庁の協力と地元請負業者の努力及部落民必死の作業により、当初懸念せし難工事も一年有半にして復旧完成の美果を収め得たるは誠に喜びにたえず、此れを記念せし本碑を建立す 昭和二十九年十月」



令和 3 年 2 月 28 日撮影

（原文はカタカナ表記）

出典：佐賀県の災害歴史遺産（佐賀県防災士会）

(参考資料：松浦川関連の災害遺構)

【昭和23年9月水害：架橋記念碑】

- ・佐賀県唐津市相知町佐里の和田山橋近くに水害復旧記念碑が建っている。



▲架橋記念碑位置（佐賀県唐津市相知町佐里）



▲架橋記念碑

令和3年3月24日撮影

【碑文について】

- ・佐賀県唐津市相知町佐里、和田山橋近くの松浦川沿いに建つ昭和23年9月水害の復旧記念碑。碑文は判読困難であるが、佐賀県の災害歴史遺産（佐賀県防災士会発行）にその全文が掲載されているので引用する。

※以下、佐賀県の災害歴史遺産（平成27年12月発行）P39～40より

架橋記念碑 碑文

「本橋梁は元三菱相知炭鉱和田山小学校の通学道路として架設昭和八年同炭鉱廃止により当町口道に編入爾来益々主要路線となり全二十年本縣々道に編入改二十一年大改修成りしに二十三年九月十二日未曾有の大洪水のため流出せり本橋梁の難点は地盤軟弱のため従前□□□を又流出し□□に於いても永久施設たる鉄筋コンクリート橋梁として設計成りしも時□も縣下□大災害により容易に着工に至らず地元区民は素より一般交通に大支障を来すため時の□長田代喜一氏の一大奮起となり縣當局を動かし昭和二十四年十一月□で其の例を見ない縣工事の代執行を命ぜられし翌二十五年一月着工せしに流木の埋没並に橋台掘整工事に再度の土砂□壊に遭遇し難工を極め、全一十六年六月



令和3年3月24日撮影

工事竣工落成の式典を挙行せり」（原文はカタカナ表記）

出典：佐賀県の災害歴史遺産（佐賀県防災士会）

【昭和23年9月水害（低気圧による大雨）の概要について】

- ・台湾付近にあった低気圧が北東に進んで、9月11日9時にはチェジュ島の南に達し、夕方には朝鮮半島南部を通過して日本海に進んだ。この低気圧の影響で期間降水量が佐世保（長崎県佐世保市）では434.4mm、佐賀で46.2mmとなるなど、九州北部で大雨となり、長崎県と佐賀県で特に被害が大きかった。この雨は9月12日まで続いたとされる。
- ・本明川水系河川整備計画において、同災害の長崎県下の被害状況として、豪雨（低気圧）により、本明川が氾濫。長崎県下の被害は、死者39名、行方不明79名、家屋の全・半壊99戸、流失64戸、家屋の浸水5973戸等であった、と記載されている。

(参考資料：徳須恵川関連の災害遺構)

【寛保元年～平成 18 年水害：住吉天神宮】

- ・佐賀県伊万里市南波多町水留の徳須恵川近くに住吉天神宮が建っている。
- ・天神宮入口の洪水水深記録碑には寛保元年（1741 年）洪水の水位などが刻まれている。



▲住吉天神宮位置（佐賀県唐津市相知町佐里）



▲住吉天神宮と洪水水深記録碑

令和 3 年 3 月 24 日撮影

【住吉天神宮について】



令和3年3月24日撮影

■住吉天神宮について

「住吉天神社は南波多町水留(つづみ)の波多(はた)川右岸の川辺に鎮座(ちんざ)します。祭神は天御中主命(あめのみなかぬしのみこと)、高皇産霊(たかみむすびの)命、神皇産霊(かみむすびの)命の三柱です。もとは天神社でしたが、大正3年(1914)に西にあった住吉神社を合祀(ごうし)しました。本殿と拝殿(はいでん)は木造瓦葺(かわらぶき)で、その時、再建されました。井手野盆地を北流する徳須恵(とくすえ)川は水留の集落を抜けると「中の瀬」の溪谷に入り、川幅が狭くなります。そこに板治(いたじ)川や志気(しげ)川が合流しているため大雨が降ると水かさが増え水留は水害が発生しやすいのです。住吉大神社には、江戸時代からの水害時の水位が拝殿の柱に記録してあります。水位を刻んだ石柱も建立されました。境内(けいだい)には本殿・拝殿のほか慶応(けいおう)3年(1867)4月再建のお籠(こもり)堂や川舟の発着所と物々交換の人寄せ場跡があります。」

(伊万里市HP 「伊万里のお宝50選」より引用)

出典：伊万里市HP 「伊万里のお宝50選」

【住吉・天神社拝殿の洪水記録と境内の石碑について】



令和3年3月24日撮影

■住吉・天神社拝殿の洪水記録と境内の石碑について

水留地区は井手野盆地内を流れる徳須恵川の最下流の地で、流水のすべてがここに集まります。これが「水留」の地名の起こりとも言われています。地区のすぐ北側には畑川内方面から流入する板治川があり、さらにその北側には流路の狭い中ノ瀬溪谷があります。大雨の時は水が捌かず水留地区は満水状態となり、古くから幾度となく洪水に見舞われて来ました。

水留地区ではその歴史を後世に伝えるため、この住吉・天神社拝殿の奥柱に水位を記して来ました。古くは江戸時代末期の安政四年(一八五七)のものが読み取れます。洪水の記録としては伊万里市内にはこの種のもの外にはなく、まことに貴重なものです。

将来、社殿の改築などの際、この歴史的記録が消滅することも予想されることから、平成八年(一九九六)「南波多の昔を語る会」によって奥柱の記録を水平移動させ、石碑に刻してこの境内に残すことにしました。

(南波多町まちづくり運営協議会)

【洪水水深記録碑について】

- ・佐賀県伊万里市南波多町水留の住吉天神宮境内に建つ昭和 23 年 9 月水害の復旧記念碑。

※以下、佐賀県の災害歴史遺産（平成 27 年 12 月発行）P59 より

伊万里市南波多町水留の住吉大神宮の拝殿の柱には江戸時代から平成 18 年に至るまでの洪水の水位が刻まれている。最も古いものは寛保元年(1741 年)の記録がある。

また、最も水位が高いのは、安政 4 年(1857 年)の水害で、鳥居とほぼ同じ高さである。近年、拝殿の水位記録を写した「洪水水深記録碑」が鳥居の前に建てられている。



出典：佐賀県の災害歴史遺産（佐賀県防災士会）

令和 3 年 3 月 24 日撮影

▼洪水水深記録碑（横）



令和 3 年 3 月 24 日撮影